

7 プログラムを企画するには

●国立室戸青少年自然の家がおすすめするプログラム作成の基本的な考え方

ダイナミックな自然を体感し、体験を通して自然を理解する

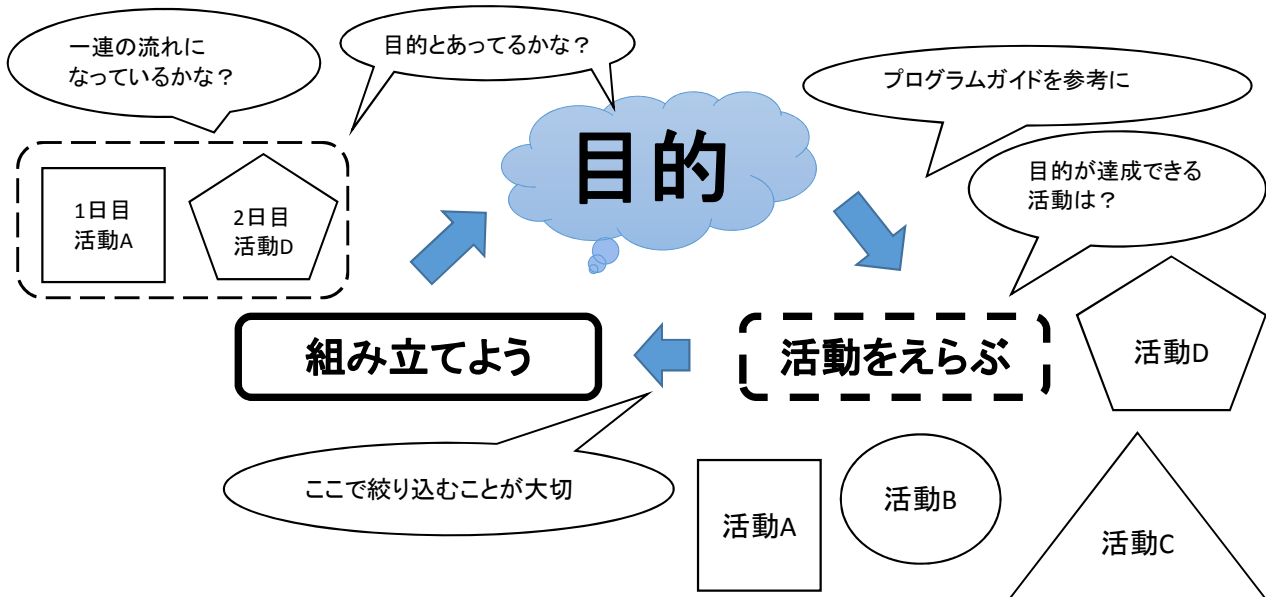
国立室戸青少年自然の家は、利用される方がよりよい成果をあげられるように、職員が支援をさせていただきます。また一方で、室戸ジオパークエリアの「環境保全」に勤め、人と自然が共存する持続可能な体験活動を提案していくという役割も持っています。

人と自然のよりよい関係づくりのためにも、ご配慮をお願いします。

●目的

宿泊活動などの「目的」を明確にし、目的に適した「活動」と「方法」を組み合わせます。宿泊活動の効果を高めるために、「目的」を明確にするとともに、「絞り込む」ことも大切です。

また、目的に応じた「活動」と「方法」を選択し、「一連の流れ」になるよう組み立てます。必要に応じてアドバイスいたしますので遠慮なくご相談ください。



●それぞれの活動では…

ねらいの確認

それぞれの活動の「ねらい」(例:協力、親睦、責任、自然とふれあう等)をはっきりさせましょう。

ねらいをいくつも入れ込まないことがおすすめです。



活動の実施



ふりかえり

活動のなかで「どんなことがあったのか」、「それはなぜか」など、活動の目的に沿って、気づきや学びを確認したり、仲間と分かち合ったりします。

どのような活動を行っても、参加者の感情の変化や気づきによりそう指導を行うことで、効果を上げることが可能だと考えています。

●安全

気象条件の考慮や活動場所の安全確認を行う

朝晩の気温の低下や炎天下での熱中症、春季や夏季の落雷、冬季の強風、日没時刻等の気象条件及び活動場所の危険箇所の確認や危険行動の予測など、安全面への配慮が必要です。

●ゆとり

日程にゆとりがあり、休憩や移動のための時間などが配慮されている

団体で行動する際には、移動に時間がかかったり、人数確認、連絡事項などに思いのほか時間をとられます。参加者が時間に追われて活動をするがあると、あせりにもなり事故にもつながります。

時間に余裕を持って、プログラムを組み立てましょう。

8 安全基準

国立室戸青少年自然の家では、安心安全な自然体験活動を提供するために、下記の基準で活動の中止をお願いすることがあります。

事故ゼロでお帰りいただくための大切な考え方ですので、どうぞご理解いただくとともにプログラムの企画時にも無理のない活動計画を立ててください。



自然の家施設内での活動

1 屋外活動

雷注意報(落雷)の発令時、10m以上の強風が吹いているとき、局部的豪雨が予測されているとき、濃霧のとき、は外に出ることをやめていただくよう指導することがあります。

落雷、倒木、行方不明などのおそれがあり、事故の可能性が高いと判断するためです。

2 オリエンテーリング活動

原則として上記(1 屋外活動)同様の判断をさせていただきます。

- 台風や強風後の倒木などにより、コースの安全性が確保できないと判断した場合は、ご利用いただけません。
- オリエンテーリングコースは、自然があふれる中でのコースになっています。むやみに枝を折ったり、葉っぱを取ったりしないようにしてください。
- オリエンテーリングコースから外れてしまうと、山で迷ってしまう可能性が高いので、地図をよく見てコースから外れないようにしてください。

3 キャンプファイアー

原則として上記(1 屋外活動)同様の判断をさせていただきます。

- 特に強風や落雷については、予測された時点で屋内活動への変更を提案させていただきます。
 - また、必要以上に灯油を使用したり、花火を行うなど、自然環境や動植物に悪影響を及ぼし、参加者にも危険性が高いと判断した場合は、活動そのものを中止していただく場合があります。
 - また、活動場所までの移動や衣服についてもご注意ください。
- ※詳細は次ページをご確認ください。

4 ナイトハイク、星座観察

原則として上記(1 屋外活動)同様の判断をさせていただきます。

- 特に強風や落雷については、予測された時点で屋内活動への変更を提案させていただきます。
- また、参加者を驚かしたり、暗闇で恐怖感をあおるような活動(きもだめし等)は禁止しています。
- 夜の活動時については、特に安全に配慮がされている場合を除き、懐中電灯等をご使用ください。
- 冬季の夜間での活動の際には、防寒対策をしっかりと行って、体調管理に十分気をつけてください。

施設外での活動

1 海の活動

各種警報・注意報が発令されている場合には活動の中止判断をさせていただきます。

また、海域状況により職員が活動に不適切であると判断した場合には、活動前及び活動中を含めて活動を中止させていただきます場合があります。

- 活動開始日までに、必ず活動計画書(届)をご提出ください。
- 海の活動中は職員の指示に従ってください。従っていない場合は活動を中止いたします。
- 活動時の服装については事前に配布された資料をご確認いただき、適切な服装で活動してください。

2 その他の施設外活動

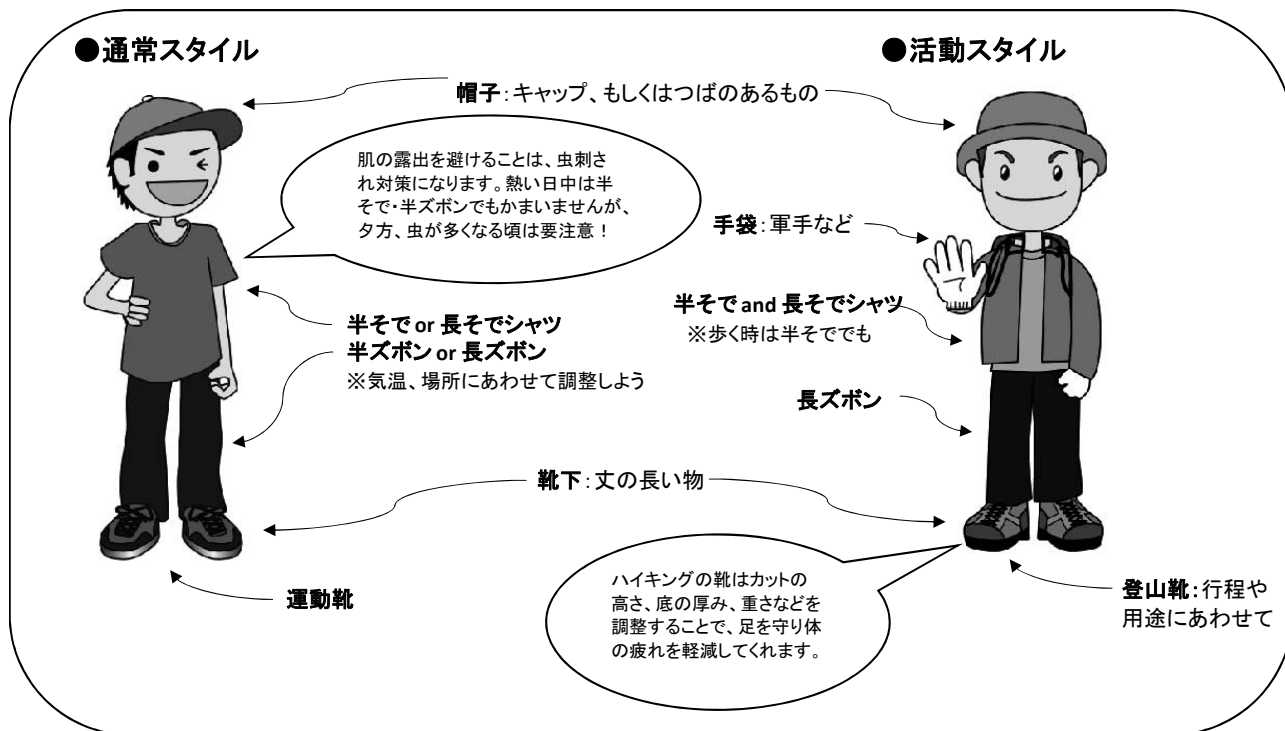
原則として上記(1 屋外活動)同様の判断をさせていただきます。

また、それぞれの活動において危険が予測される場合には、中止や活動の変更を提案する場合があります。

9 服装・持ち物について

服装や持ち物の準備は、その活動をより楽しむため、そして事故を防ぐために必要不可欠です。季節だけでなく、地域の気候や活動、もしもの時などいろいろな用途を考えて、しっかりと準備しましょう。

プログラムの指導を依頼する場合は、必ず事前に指導者と活動内容について確認するようにしてください。



●カッパについて

カッパは雨天に限らず、防寒着としても活用できる、野外活動の必需品です。

★できればセパレートタイプを

上着とズボンの上下に分かれた、セパレートタイプが一番活動に適しています。動きやすさに加え、ズボンがあるので、足元の濡れを防ぎます。

●防寒着

室戸自然の家は標高約250mの山の上にあります。高知市街地より2~3℃程度気温が低く、朝晩は特に冷え込みます。

また、風が強い日が多くその場合には体感温度はさらに下がります。季節にかかわらず、気温を過信せず、防寒着をお持ち下さい。

外側に着る服は、冷たい空気を入れず、中の暖かい空気を逃がさないのが良いです。特に防風性の高いものが重宝します。

●夏季の服装について

夏は熱中症予防のために涼しい服装がおすすめですが、短パンやサンダルの場合、虫さされの心配があります。特に足首まわりをブヨに刺されるケースが多くみられます。

転倒防止や虫刺され予防のために、靴下を履いたうえで靴の着用がおすすめです。

●軍手について

「軍手」と言っても、素材や編み方で様々な種類があります。

やけどやケガを防ぐために軍手を使いますが、軍手の選び方次第では、逆効果になることがあります。素材の特性を理解しておくことが身を守ることに繋がります。

○ 綿100%の軍手

熱の伝わり方が遅く、急に燃えたり溶けだすことはないので、化学繊維を含むものよりは危険は少ないと言えます。野外炊事などは、必ず綿100%のものを選びましょう。

△ 化学繊維(アクリル、ポリエステル、ナイロン)

熱を通しやすく、熱いものに触れた場合、すぐに軍手が溶けだし、やけどをする危険性が大きいと言えます。

✖ ゴムびきの軍手(イボ付軍手など)

繊維だけの軍手よりは燃えにくいですが、火に近づけていると、表面のゴムが溶けだして激しく燃え、非常に危険な状態になります。野外炊事等火を使う活動には適していません。

◎ 革手袋

熱湯がかかっても、まずやけどにはなりません。熱が手袋の内部に伝わる時間が繊維性の軍手より長くなります。革手袋は火を扱う時には、最も安全だと言えます。火を使う活動をされる引率の指導者の方などは、携行をおすすめします。

軍手を過信したり、軽視したりすると、
いろんな事故につながります。

～出典: 日本キャンプ協会CAMPシート～